

# 文 化

作曲家のヘンデルとい  
えば、日本人は何を思い  
浮かべるだろうか。学校  
の授業で「音楽の母」と  
習ったかもしれない。「音  
楽の父」と呼ばれるバッ  
ハと、同じ年に生まれた  
からだ。有名な「ハレル  
ヤ」コーラスが含まれる  
「メサイア」の作曲者と  
しても知られている。し  
かしこれは、アイルラン  
ドでのチャリティーコン  
サート用に作られた、少  
し特殊な作品である。

作曲家のヘンデルとい  
えば、日本人は何を思い  
浮かべるだろうか。学校  
の授業で「音楽の母」と  
習ったかもしれない。「音  
楽の父」と呼ばれるバッ  
ハと、同じ年に生まれた  
からだ。有名な「ハレル  
ヤ」コーラスが含まれる  
「メサイア」の作曲者と  
しても知られている。し  
かしこれは、アイルラン  
ドでのチャリティーコン  
サート用に作られた、少  
し特殊な作品である。



チェコの公演で、休憩時間にジ  
ェスチュアを披露する歌手たち

都立高校教師をしながら  
コツコツと研究を進めて  
いたが、欧米に比べ日本  
ではどうもヘンデルが冷  
遇されている。欧米では  
再評価が進み、ドイツの  
ハレやゲッティンゲン、  
英国のロンドンなどで毎  
年盛大なフェスティバル  
が開かれている。対して

ハレで生まれ、英国に帰  
化したヘンデルは、教会  
音楽で活躍したバッハと  
違い、オペラ、オラトリ  
オなど劇場用の音楽を多



三澤 寿喜

## ヘンデル晩年の心意気

◇「音楽の母」が挑んだオラトリオなど日本で研究・上演◇

#b#  
知られざる人生  
ヘンデルは同時代のバ  
ッハや、少し後の時代の  
モーツァルト、ベートー  
ヴェンらに比べると作品  
も人生も、知られていな  
い。学生時代から三十年  
以上研究を続けている私  
も、ヘンデルの本当のす  
ごさ、恐ろしさを実感で  
きたのはここ五、六年だ。  
私は五十七歳だが、ヘ  
ンデルは同じ歳に、それ  
までのオペラからオラト  
リオ（宗教的音楽劇）の  
世界に方向転換  
した。劇場を賃  
借して公演を行  
い「当日券」を  
売る新しいスタ  
イルで興行師と  
して成功したの  
も六十歳以降で  
ある。

のは国立音楽大学の大学  
院時代だ。ヘンデルの時  
代、十七十八世紀の「バ  
ロック音楽」が、世界的  
に注目されたころだ。ま  
ず器楽曲から入ったが、  
ある日、日本のヘンデル  
研究のパイオニアである

渡部恵一郎先生のお宅で  
イタリア語のカンタータ  
「ルクレツィア」のレコ  
ードを聴き、衝撃を受け  
た。この作曲家の本領が  
最も発揮されたのは、声  
楽曲だと思いついた。  
以来、卒業後は東京の

日本では、一九八五年の  
バッハとヘンデル、共に  
生誕三百年の記念の年で  
さえ、脚光を浴びたのは  
バッハばかりだった。  
#b#  
脚光浴びぬ悔しさ  
悔しかった。研究だけ  
でなく普及活動も必要だ  
と思い、十三年前に大学  
に転職。二〇〇三年には  
「ヘンデル・フェスティ  
バル・ジャパン(HFJ)」  
を立ち上げ、あまり知ら  
れていない作品の上演に  
取り組んでいる。  
一六八五年にドイツの

く創作した。これらの上  
演のため、劇場運営でも  
世界の先端を走った。  
英国王室と深い縁があ  
ったが、貴族に依存しな  
い独立した生き方を志向  
した。心はいつも、劇場  
を訪れる一般市民の方を  
向いていたように思う。  
彼の劇場作品は、ときに  
醜く、過ちを犯す弱い人  
間への温かな共感にあふ  
れている。慈善活動にも  
一貫して熱心だった。  
そんなヘンデルを理解  
するには、やはり「劇場」  
を避けて通れない。次第  
にこの思いが強まるのだ  
が、チェコ南部のチェス  
キー・クルムロフ城にそ  
のヒントがある。十八世  
紀半ばに劇場として使わ  
れた場所で、衣装も装置  
も小道具も当時のままに  
復元して、オペラが上演  
されているのだ。私は毎  
年出かけている。

奥行き深い舞台に  
は、幾枚もの書き割りが  
置かれている。書き割り  
の間には、照明のための  
ろうそくが置かれ、その  
角度の調整で光を増減さ  
せる。歌手は、歌舞伎に  
も通じる様式的なジェス  
チュアで凝縮された感情  
を表現する。この上演を  
見ていると、ヘンデル時  
代の観客は、音楽だけで  
なく舞台の仕掛けなど幻  
想的な世界全体を楽しん  
でいたと感ずる。  
#b#  
新発見の楽譜演奏  
我がHFJでもい  
れ、すべてバロック様式  
によるヘンデル・オペラ  
に挑戦したい。その前に  
まず次の第五回HFJで  
は「英国王室とヘンデル」  
と題して今年八月(目白  
聖公会)と来年一月十八  
日(浜離宮朝日ホール)  
に演奏会を開く。  
中でも一月の「水上の  
音楽」は、近年見つけた  
楽譜に基づくもので、お

そらく世界に先駆けた演  
奏となる。長い間、三つ  
の組曲とされてきた作品  
が、二十二の楽章による  
ひとつの組曲であると結  
論づけられたのだ。一七  
一七年初演だが、この時  
代に全一時間もの組曲は  
常識外。ハレのヘンデル  
研究者から情報を得た。  
指揮にはエンリコ・オノ  
フリ氏をお招きする。  
再来年の二〇〇九年は  
ヘンデルの没後二百五十  
年。それまでに、どれだ  
け普及を進められるだろ  
う。ヘンデルの晩年のバ  
イリティーを知ること  
れ、負けてはいられない  
と奮い立つ。(みさわ・  
ときき北海道教育大学  
函館校教授)